



2013年3月期 決算説明会



2013年5月22日

証券コード：1332

お問合せ先：

経営企画IR室広報IR課 03-3244-4371

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

日本水産株式会社

2013年3月期 決算の概要

2013年3月期
連結損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2013年3月期 実績	売上高比	2012年3月期 実績	売上高比	増減	増減率
売上高	5,668		5,380		288	5.4%
売上総利益	1,202	21.2%	1,197	22.3%	4	0.4%
販売費・一般管理費	1,144		1,101		42	
営業利益	58	1.0%	95	1.8%	▲37	▲39.2%
営業外収益	45		40		4	
営業外費用	48		51		▲2	
経常利益	54	1.0%	84	1.6%	▲29	▲35.2%
特別利益	20		6		13	
特別損失	96		76		20	
税金等調整前当期純利益(▲損失)	▲21	▲0.4%	14	0.3%	▲36	
法人税等	47		43		4	
法人税等調整額	▲3		▲52		49	
少数株主損益調整前当期純利益(▲損失)	▲66		23		▲90	
少数株主利益(▲損失)	▲18		3		▲22	
当期純利益(▲損失)	▲47	▲0.8%	20	0.4%	▲67	

■ 特別損失 96億円

うち、事業整理損83億円(ブラジルNETUNO社事業からの撤退)

■ NETUNO社概要

- 所在地 :ブラジル国レシフェ市
- 営業種目:ティラピア・えび養殖、水産品(ロブスター他)の輸出。

■ 事業撤退に至った経緯

- ティラピア事業に一定の改善は見られるものの、事業の拡大と根本的な事業構造改革には多大な経営資源の追加投入が見込まれる。
- ティラピアの販売が国内市場中心であり、グループシナジーの追求は容易でない。

■事業撤退に至った経緯

- ロブスターは漁獲が不安定であり、買付が安定しない。
- えび養殖は、魚病の発生・輸入禁止措置解除のリスクなどにより自社養殖からは既に撤退済みである。
- 経営改善を進めてきた新社長の交通事故死。

当社の厳しい経営状況からリスクも大きく、また 収益化に時間を要する本事業から早期に撤退すべきと判断しました。

■事業整理損の内訳

項 目	(単位:億円)
固定資産等の減損	45
撤退費用等	19
不良債権に対する貸倒引当金の計上	11
棚卸資産の減損等	7
事業整理損 計	83
少数株主損益への振替	▲15
当期利益への影響額(損失)	68

(単位:億円)

流動資産 2,015 (+74)	流動負債 2,023 (+61)
	固定負債 1,559 (+152)
固定資産 2,200 (+133)	純資産 632 (▲6)
総資産 4,216 (+207)	うち自己資本 497 (+38) 自己資本比率 11.8%

()内の数字は前期末比増減

主な増減要因			
流動資産	+74	受取手形及び売掛金	+30
		商品及び製品	▲54
		仕掛品	+26
		原材料及び貯蔵品	+53
固定資産	+133	有形固定資産	+32
		無形固定資産	+3
		投資その他の資産	+97
流動負債	+61	短期借入金	+100
		その他	▲53
固定負債	+152	長期借入金	+121
		退職給付引当金	+35
純資産	▲6	利益剰余金	▲67
		その他の包括利益累計額	+105
		少数株主持分	▲44

※新規連結会社(金子産業、LEUCHTTURM等)による
総資産増加の影響額 141億円

※自己資本比率 '12/3 11.5% → '13/3 11.8%

2013年3月期

連結キャッシュ・フロー計算書(前年比)



(単位:億円)

	13/3	12/3	増減	内訳	13/3	12/3	増減
営業活動によるCF	151	238	▲86	税金等調整前当期純利益	▲21	14	▲36
				減価償却費	168	167	0
				事業整理損失	83	41	42
				運転資本の増減額	7	▲29	37
				その他	▲52	62	▲115
投資活動によるCF	▲213	▲167	▲45	有形固定資産の取得による支出	▲192	▲122	▲70
				有形固定資産の売却による収入	29	1	27
				無形固定資産の取得による支出	▲12	▲32	20
				投資有価証券の売却による収入	22	1	20
				子会社株式の取得による支出	▲44	—	▲44
				連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得支出	▲15	▲2	▲12
				短期貸付金の増減額	▲18	▲6	▲12
財務活動によるCF	84	▲90	174	短期借入金の増減額	25	▲79	105
				長期借入金の増減額	84	30	53
				配当金の支払額	▲13	▲27	13
現金等の期末残高	181	149	31				

※営業活動によるCFの「その他」には前渡金の増加額、前受金の減少額等が含まれる。

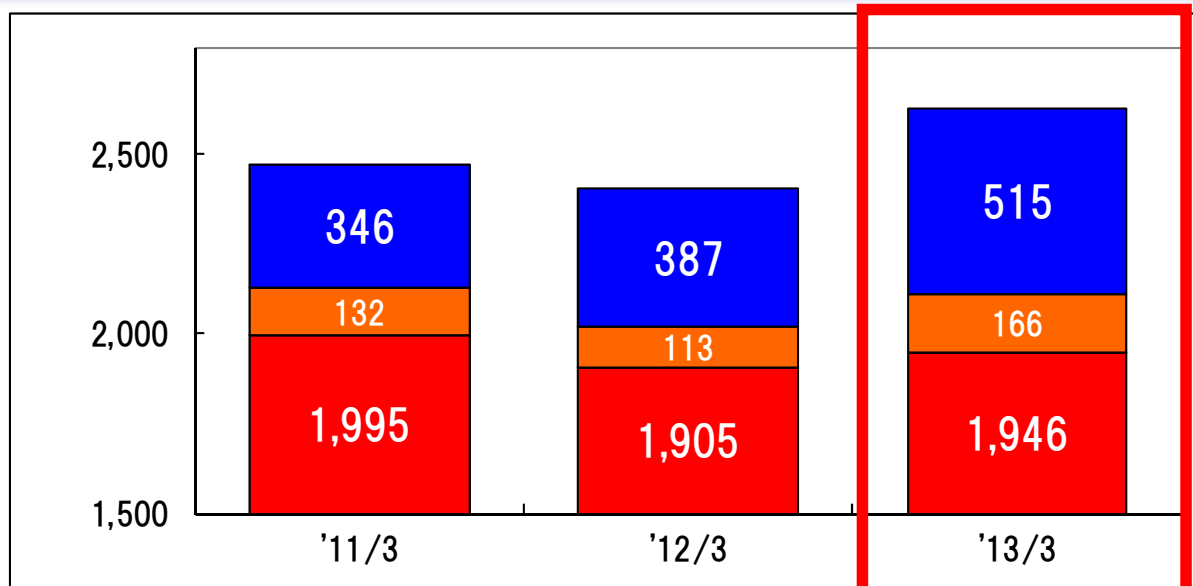
2013年3月期

連結借入金・純金利負担



(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



前期末 比増減	主な増減要因
+128	LEUCHTTURM +42 為替 +52
+53	金子産業 +51
+41	

借入金合計	2,473	2,405	2,626	+221
短期借入金	1,285	1,207	1,307	+100
長期借入金	1,187	1,197	1,319	+121
短期借入金平均利率	1.1%	1.2%	0.9%	▲0.3%
長期借入金平均利率	1.7%	1.6%	1.4%	▲0.2%
純金利負担	19.9	18.3	18.1	
対営業利益純金利負担率	25%	19%	31%	
支払利息	35.9	37.3	37.6	
受取利息	5.6	8.1	9.3	
受取配当金	10.3	10.8	10.1	

2013年3月期

セグメントマトリックス売上高(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,895 (70)	352 (71)	296 (▲14)	150 (▲0)	374 (▲0)	3,069 (126)	▲739 (▲35)	2,329 (91)
	1,825	281	310	150	374	2,942	▲704	2,238
食品事業	3,030 (161)	456 (55)		68 (9)	156 (59)	3,710 (285)	▲1,030 (▲196)	2,680 (89)
	2,868	401		58	96	3,424	▲834	2,590
ファイン事業	291 (15)			2 (0)		293 (15)	▲18 (▲0)	275 (15)
	275			2		278	▲18	259
物流事業	215 (16)					215 (16)	▲81 (▲7)	133 (9)
	198					198	▲74	124
その他事業	329 (89)			1 (0)		330 (89)	▲81 (▲6)	249 (82)
	240			1		241	▲74	167
仮計	5,761 (352)	809 (126)	296 (▲14)	222 (9)	530 (59)	7,619 (533)		
	5,409	682	310	212	471	7,085		
連結調整	▲1,436 (▲189)	▲189 (▲48)	▲176 (10)	▲126 (▲11)	▲22 (▲6)		▲1,951 (▲245)	
	▲1,246	▲141	▲186	▲115	▲15		▲1,705	
連結計	4,325 (162)	619 (78)	119 (▲4)	95 (▲1)	508 (52)			5,668 (288)
	4,162	540	123	97	455			5,380

※上段は2013年3月期実績、下段は2012年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※新規連結会社による影響額 合計 +295億円(ハチカン141億円、金子産業129億円、LEUCHTTURM24億円)

※為替換算による売上高への影響額(試算) +203億円

2013年3月期

セグメントマトリックス営業利益(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	11 (▲8)	7 (5)	▲37 (▲50)	▲2 (5)	3 (▲2)		▲17 (▲50)	▲7 (5)	▲25 (▲45)
	20	1	13	▲7	6		33	▲12	20
食品事業	14 (▲14)	8 (▲1)		0 (3)	▲3 (▲9)		19 (▲21)	▲0 (5)	19 (▲15)
	28	9		▲3	5		40	▲5	34
ファイン事業	72 (9)			0 (0)			73 (9)	0 (0)	73 (9)
	63			0			63	0	63
物流事業	17 (1)						17 (1)	1 (▲0)	18 (1)
	15						15	1	17
その他事業	12 (5)			0 (▲0)			12 (5)	▲0 (▲1)	11 (4)
	6			0			6	0	7
全社経費						▲39 (7)	▲39 (7)	0 (1)	▲38 (8)
						▲46	▲46	▲1	▲47
仮計	128 (▲5)	15 (4)	▲37 (▲50)	▲2 (8)	▲0 (▲12)	▲39 (7)	64 (▲48)		
	133	11	13	▲10	11	▲46	112		
連結調整	▲6 (▲2)	0 (6)	5 (7)	▲0 (0)	▲5 (▲1)	0 (▲0)		▲6 (10)	
	▲4	▲5	▲1	▲1	▲4	0		▲17	
連結計	121 (▲7)	16 (10)	▲32 (▲43)	▲2 (9)	▲6 (▲13)	▲39 (6)			58 (▲37)
	129	5	11	▲12	7	▲46			95

※上段は2013年3月期実績、下段は2012年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※2012年3月期の数値は、過年度遡及会計基準に基づき新しい配賦基準により組替えているため、前年での開示とは異なっている。

2013年3月期
個別損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2013年3月期 実績	売上高比	2012年3月期 実績	売上高比	増減	増減率
売上高	3,298		3,300		▲2	▲0.1%
売上総利益	661	20.1%	681	20.7%	▲19	▲2.9%
販売費・一般管理費	669		676		▲6	
営業利益(▲損失)	▲7	▲0.2%	5	0.2%	▲13	
営業外収益	68		47		21	
営業外費用	54		42		12	
経常利益	6	0.2%	10	0.3%	▲4	▲43.0%
特別利益	13		4		9	
特別損失	17		128		▲110	
税引前当期純利益(▲損失)	2	0.1%	▲113	▲3.4%	115	
法人税等	1		3		▲1	
法人税等調整額	▲2		▲59		56	
当期純利益(▲損失)	3	0.1%	▲56	▲1.7%	60	

2013年3月期
個別貸借対照書(前年比)



(単位:億円)

流動資産 1,219 (+22)	流動負債 1,244 (▲96)
	固定負債 1,300 (+120)
固定資産 1,751 (+25)	純資産 426 (+24)
総資産 2,971 (+48)	

主な増減要因

流動資産	+22	現金及び預金	+32
		商品及び製品	▲56
		関係会社短期貸付金	+25
		その他	+22
固定資産	+25	有形固定資産	▲56
		無形固定資産	▲8
		投資その他の資産	+90
流動負債	▲96	短期借入金	▲73
		未払費用	▲14
固定負債	+120	長期借入金	+113
		退職給付引当金	+12
純資産	+24	利益剰余金	▲10
		評価・換算差額等	+34

※自己資本比率 ‘12/3 13.8% → ‘13/3 14.4%

()内の数字は前期末比増減

2013年3月期

全体のポイント 売上高・営業利益 増減額(前年比)



(単位:億円)

	'12/3期 実績	売上高		'12/3期 実績	営業利益	
		'13/3期実績 増減額	実績		'13/3期実績 増減額	実績
ニッスイ個別 水産	1,129	▲29	1,099	1	▲19	▲17
ニッスイ個別 食品	2,031	20	2,051	12	▲7	4
ニッスイ個別 ファインケミカル	130	16	147	38	6	44
ニッスイ個別計	3,300	▲2	3,298	5	▲13	▲7
国内各社計	2,108	354	2,463	81	14	96
海外各社計	1,676	181	1,857	25	▲49	▲24
連結調整	▲1,705		▲1,951	▲17		▲6
連結合計	5,380	288	5,668	95	▲37	58

2013年3月期 水産事業

■ 漁業

- チリ: 操業日数の減少に加え漁獲も不振
- アルゼンチン: PESPASA社売却済、PESANTAR社はトロール船1隻での操業による収益改善

■ 養殖

- 日本: ぶり養殖事業 天然ぶり豊漁による魚価低迷
まぐろ養殖事業 魚価が高値で推移
- チリ: 鮭鱒養殖事業 日本向け銀鮭の供給過剰による値崩れ
及びトラウト価格の下落

■ 加工・商事

- 北米: すけそうだら加工品の生産と販売が順調に推移

■ ニッスイ個別

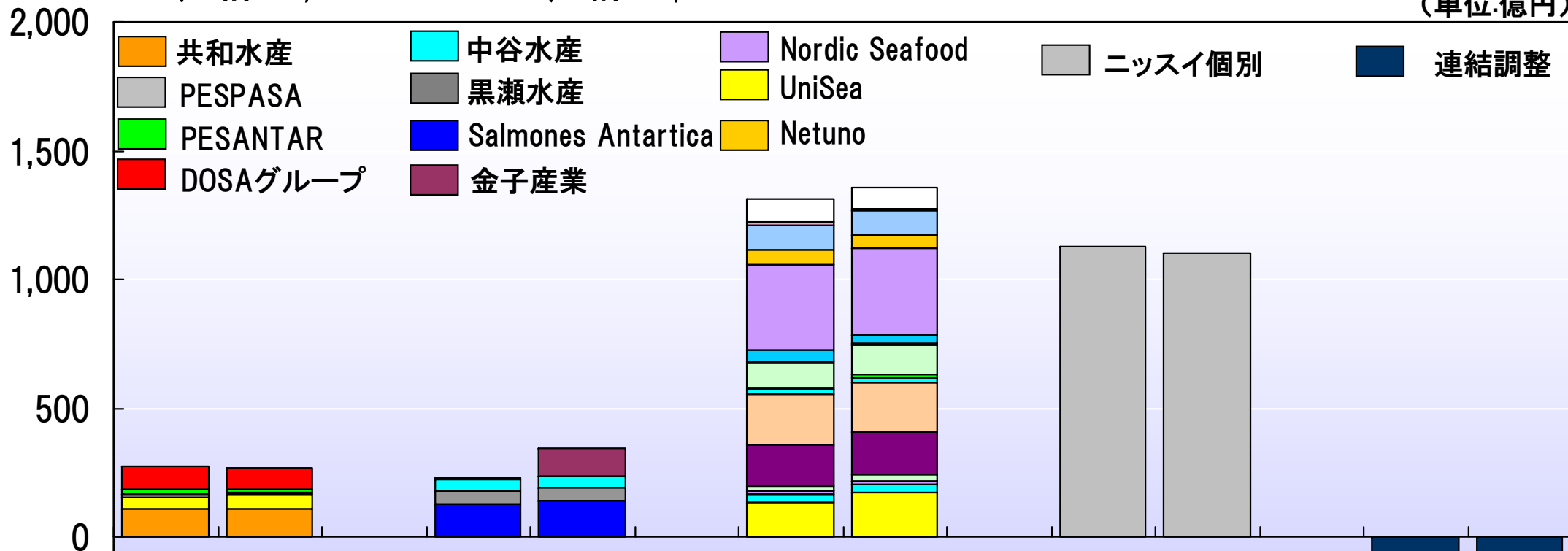
- 日本: 上期は鮭鱒を初めとする冷凍水産物全般の価格下落・粗利の低下、ミール取引での損失
下期は相場が底を打ち、在庫削減を進めた結果、在庫回転率が改善



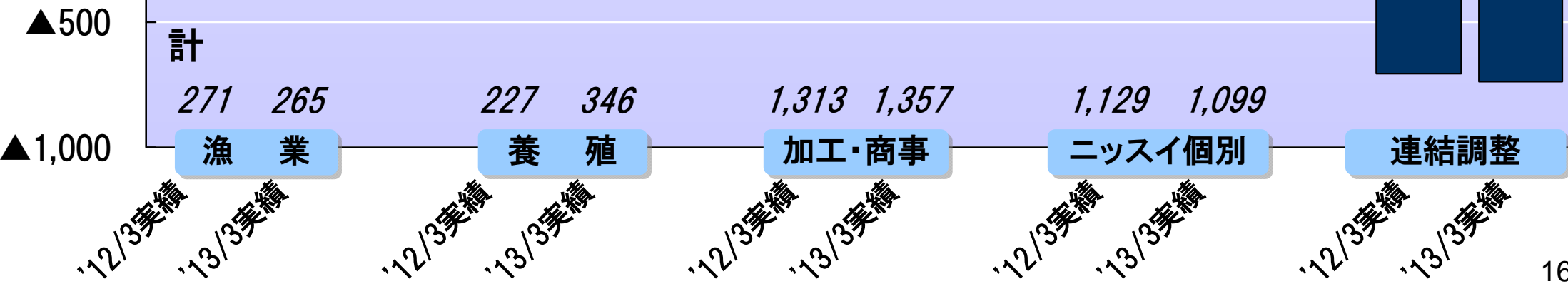
'12/3計 2,238

'13/3計 2,329

(単位:億円)



※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別合計数値。

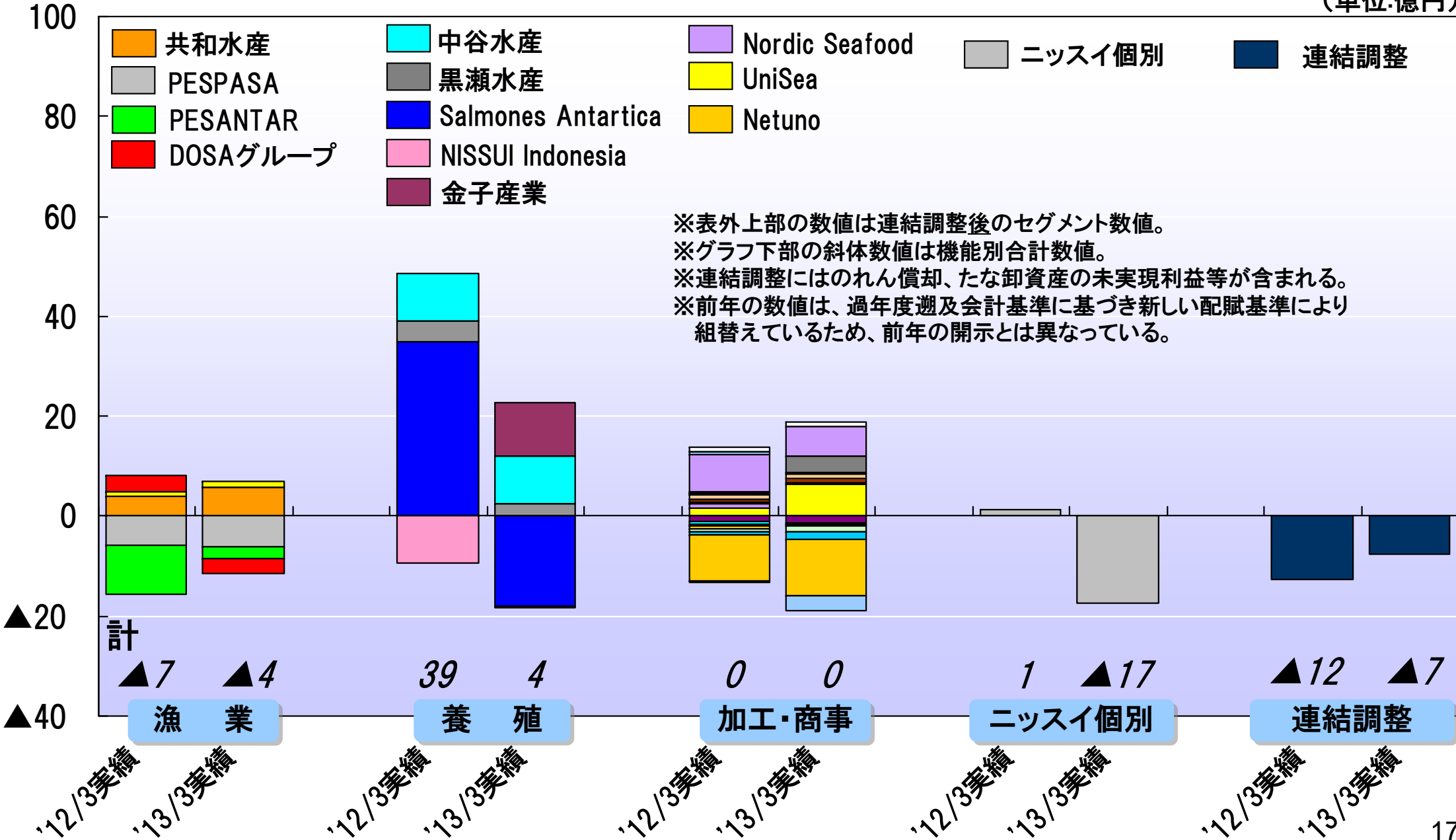




'12/3計 20

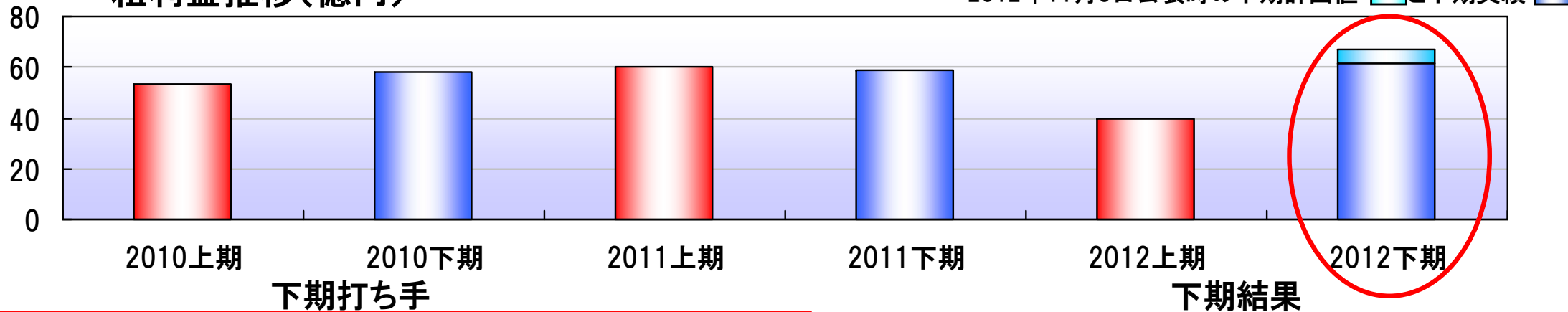
'13/3計 ▲25

(単位:億円)



粗利益推移(億円)

2012年11月5日公表時の下期計画値 と下期実績



下期打ち手

下期結果

9月末に不良在庫一掃(在庫水準は過去10年間で最低レベル)。下期粗利率は前年並の水準まで回復する見通し。

【すりみ】

・年末需要期に向け収益性の高い南米産すりみを始め、北海道産すりみの販売拡大を行う

【えび】

・南米産赤えびを中心に販売を展開し粗利益を確保。
上期に価格が下落したバナメイ、ブラックタイガーなどは、在庫の絞込みにより下期収支改善を見込む

【鮭鱒】

・市場価格と乖離していたチリ産銀鮭、ロシア産紅鮭等の在庫を一掃したことで、下期以降粗利率は上昇傾向。収益性の高いロシア産紅鮭、ニッスイタイランド社製加工品の販売拡大を行う
・チリ産銀鮭の本格的搬入シーズンを迎えるが、今後も在庫の数量・価格において適正水準を維持する

【ぶり類】

・黒瀬水産のぶりの販売は堅調に推移しているが、年末需要期に向け販売を強化し、予算以上の利益を確保する

・12月末、3月末在庫も削減。
・製品の回転率も上がり物流費も減少。
→下期粗利率は前年並の水準まで回復。
(3月末在庫は140億円台)

【すりみ】

・アラスカBシーズン物の相場悪く失速

【えび】

・赤えびはほぼ見込通りだったが、それ以外は苦戦

【鮭鱒】

・相場も下げ止まった事から粗利率は急回復。
ロシア産紅鮭やチリ産銀鮭定塩の販売で収益を確保

【ぶり類】

・浜値は下がり基調だが、販売は堅調に推移
年末需要期に向けた販売の強化が実現し、
予算以上の利益を確保

2013年3月期 食品事業

■ 加工

- 北米:GORTON'S 市場の伸び悩みや価格競争が激化
King & Prince 市場が低調に推移する中、生産・販売面で改善

■ チルド

- コンビニエンスストア向けチルド弁当、惣菜、麺類の販売が伸長

■ ニッスイ個別

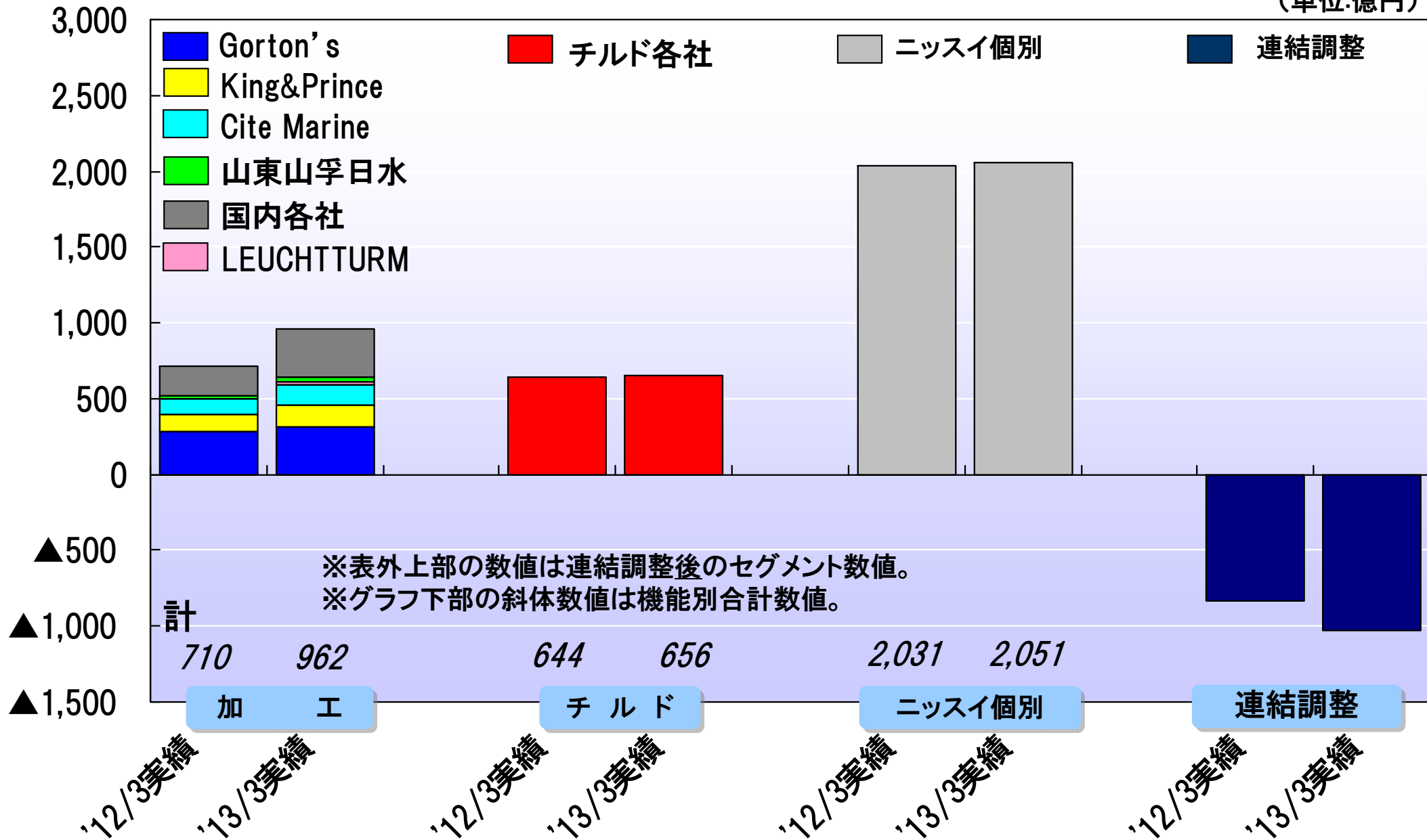
- 米・小麦などの価格上昇、円安による輸入原材料・製品の価格上昇
- 家庭用冷凍食品:販売競争激化による販売経費増加
- 魚肉ソーセージ:消費の減退
- 業務用冷凍食品:海外生産品の人件費高騰



'12/3計 2,590

'13/3計 2,680

(単位:億円)

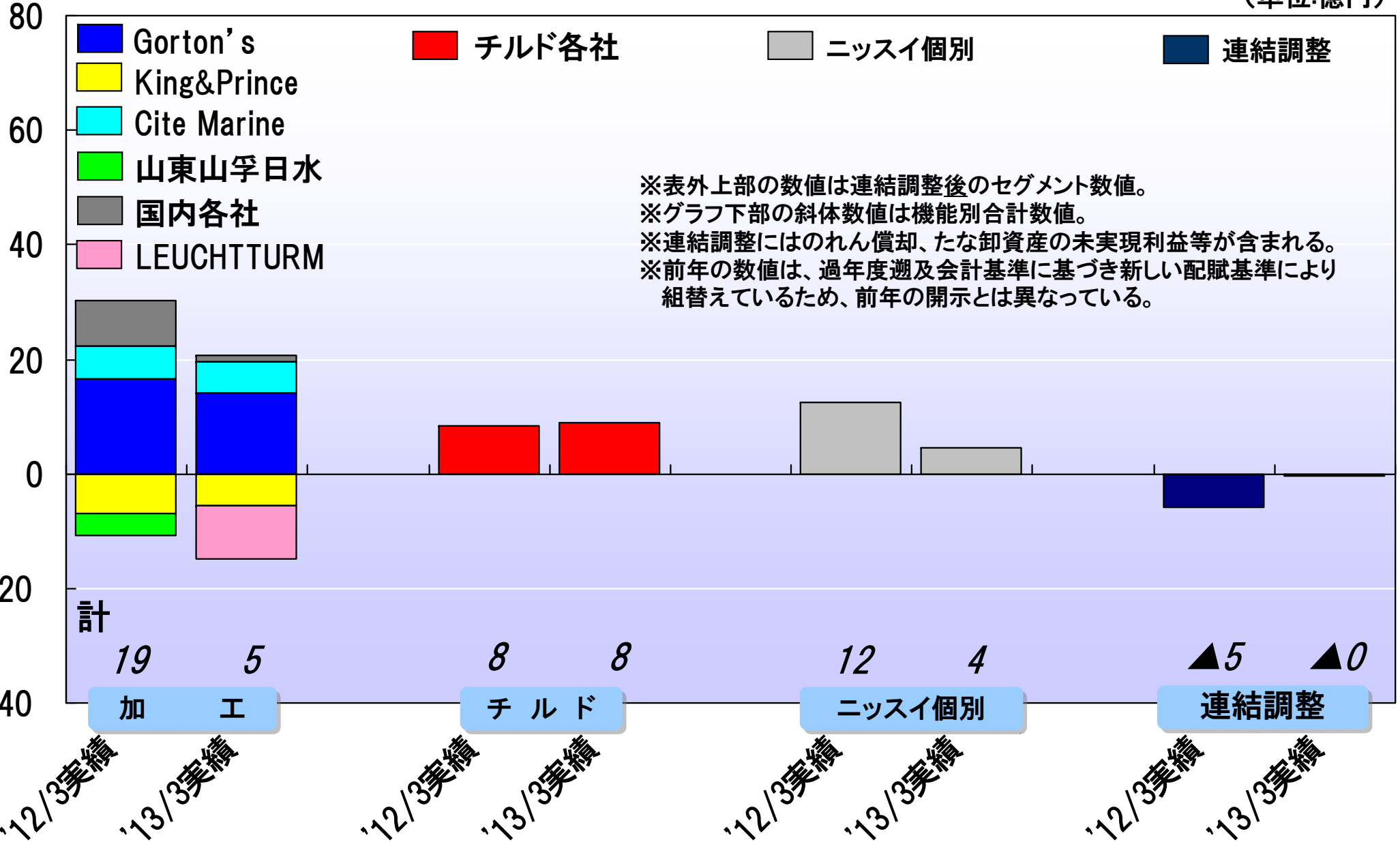




'12/3計 34

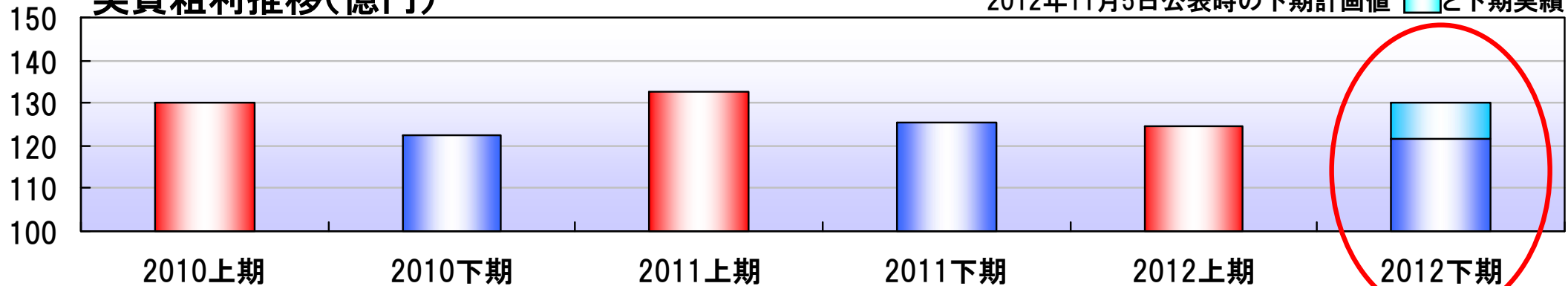
'13/3計 19

(単位:億円)



実質粗利推移(億円)

2012年11月5日公表時の下期計画値 と下期実績



※実質粗利とは、通常の粗利からリベート等の直接販売経費を控除した利益を表します。

下期打ち手

下期結果

【家庭用】

- ・家庭用調理品～利益商材へ注力
- ・販売経費率の抑制

【ハムソー・ちくわ】

- ・TVCM、消費者キャンペーン、店頭販促の同時実施
- ・練り製品は利益商材の拡販

【業務用・ファインフード】

- ・「チキン加工品」「コロケ」「春巻」の拡販
- ・新カテゴリーである「おさかなソー」の拡販
- ・冬場商品の「グラタン・ドリア」の拡販

【家庭用】

- ・焼きおにぎり等、利益商材への注力がある程度出来た
- ・販売経費は競争の激化により増加

【ハムソー・練り】

- ・ハムソー:引き続きシェアNo.1を維持(市場は縮小)
→期待した効果は得られず

- ・練り製品:冬入りの遅れや暖冬により、利益商材が見込を下回った

【業務用・ファインフード】

- ・拡販に努めたが、他社生産回復・価格競争が激化し、期待したレベルには達せず
- ・冬入りが遅れ、グラタン・ドリア・カキフライ等の冬場商品はスロースタートだったが通期では貢献

【全般】

- ・12月からの急激な円安により、冷食・缶詰の輸入品が大幅にコストアップし利益を圧迫

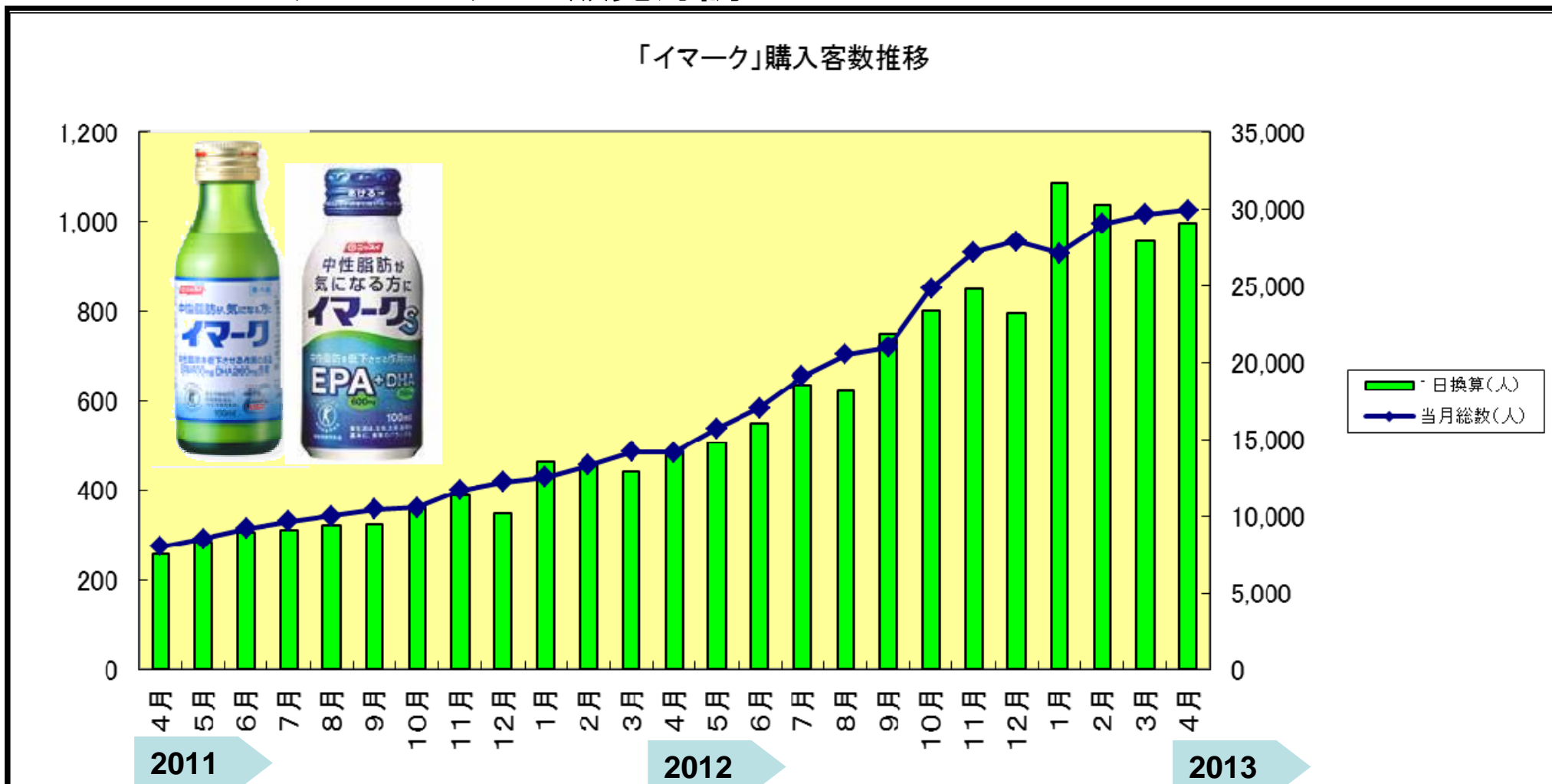
2013年3月期 ファインケミカル事業

■ 医薬原料

■ 薬価改定8.3%の影響を販売数量増で補完

■ 機能性食品

■ イマーク・イマークSの販売好調



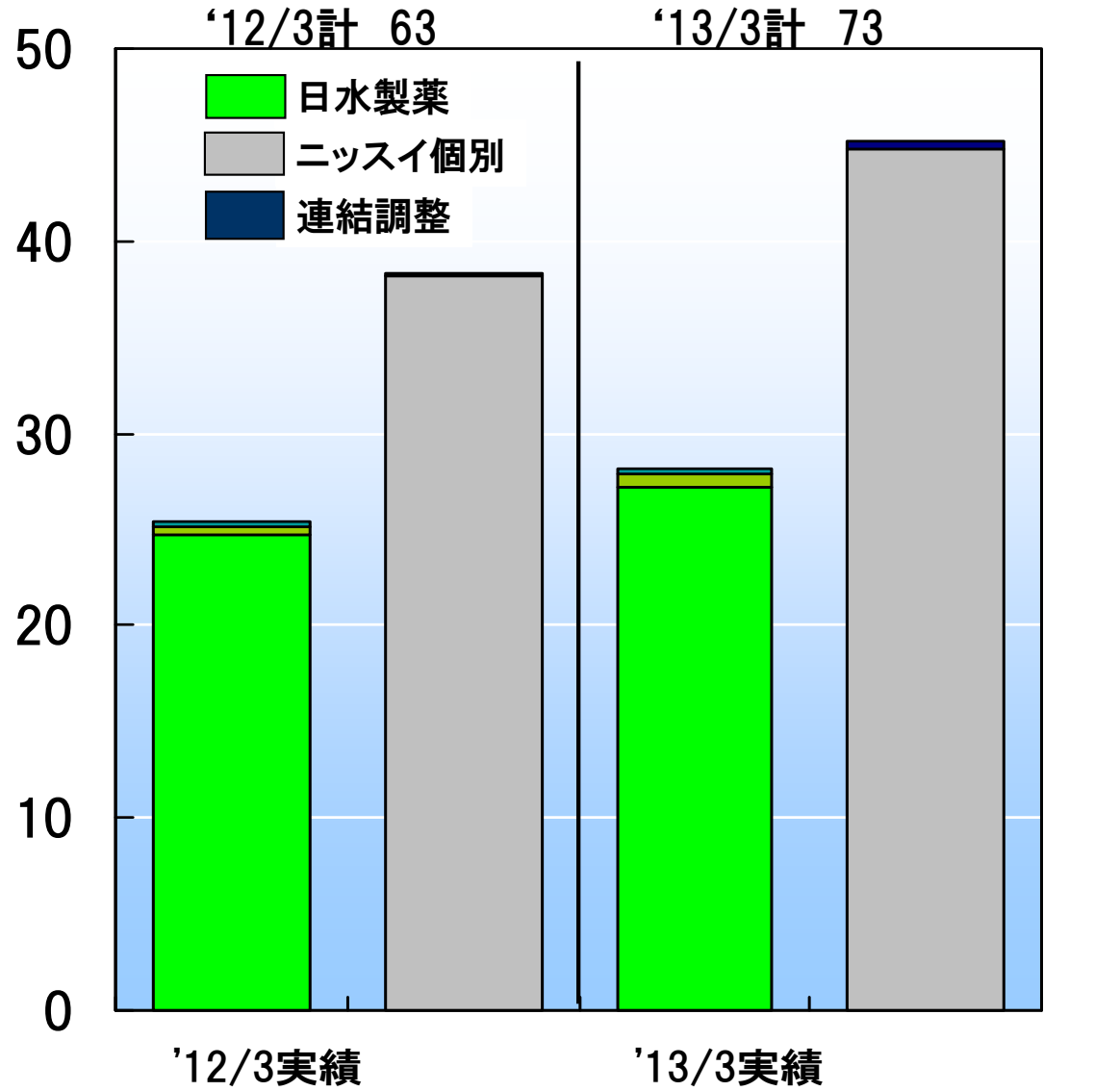
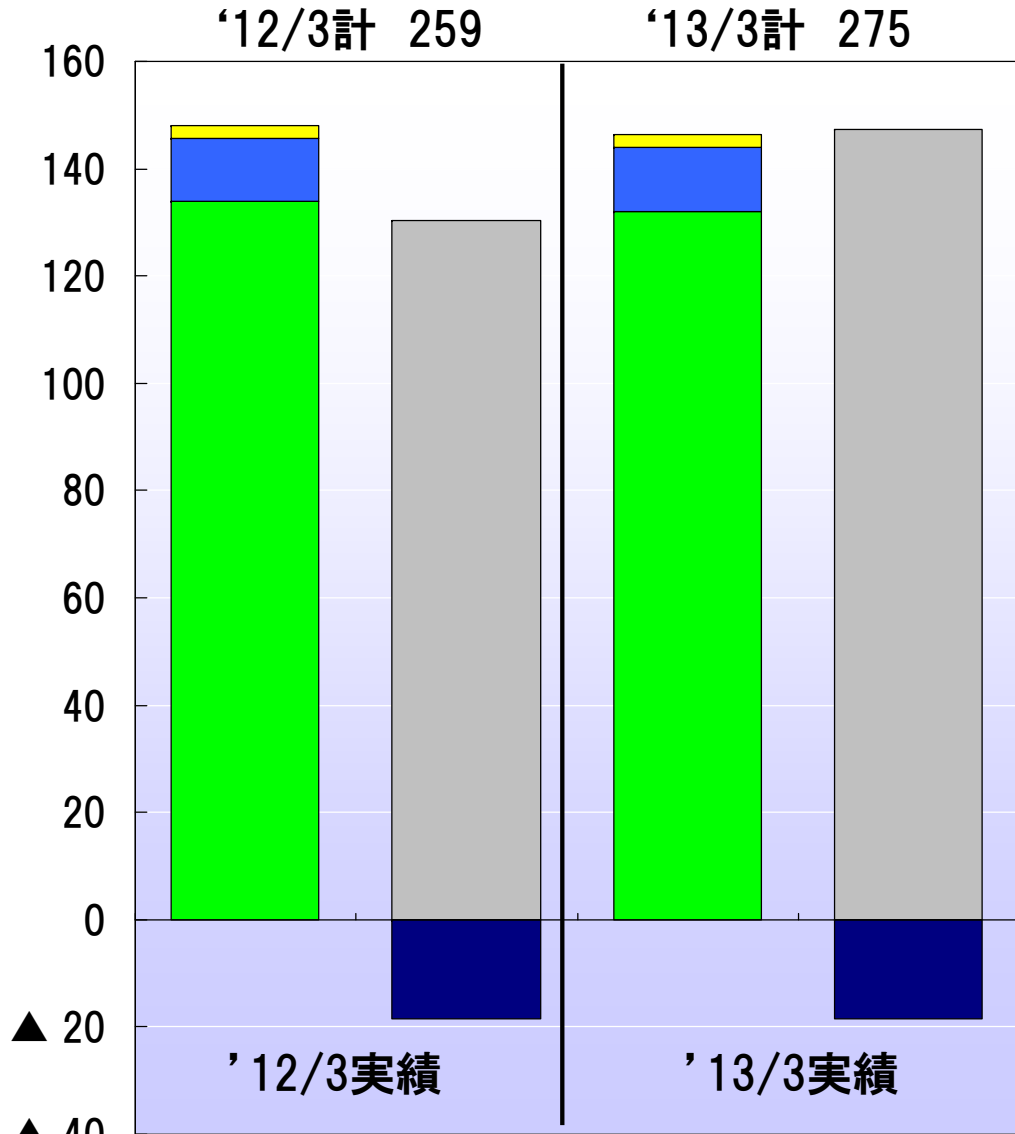


売上高

(単位:億円)

営業利益

(単位:億円)



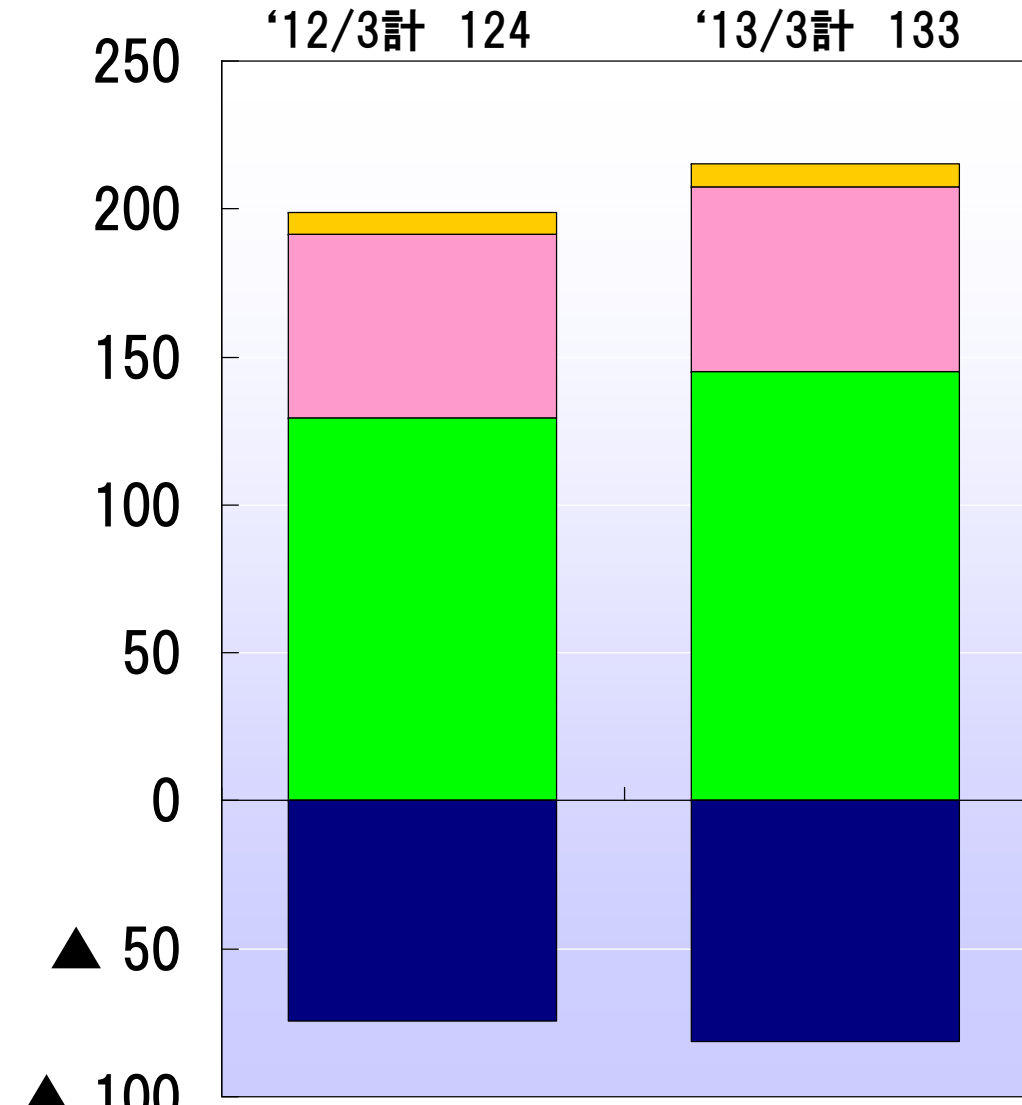
- 日水製薬計
- TN Fine Chemical
- 連結調整
- 北海道ファインケミカル
- ニッセイ個別 ファイン計

※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※連結調整には、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。
 ※前年の数値は、過年度遡及会計基準に基づき新しい配賦基準により組替えているため、前年の開示とは異なっている。

2013年3月期 物流事業

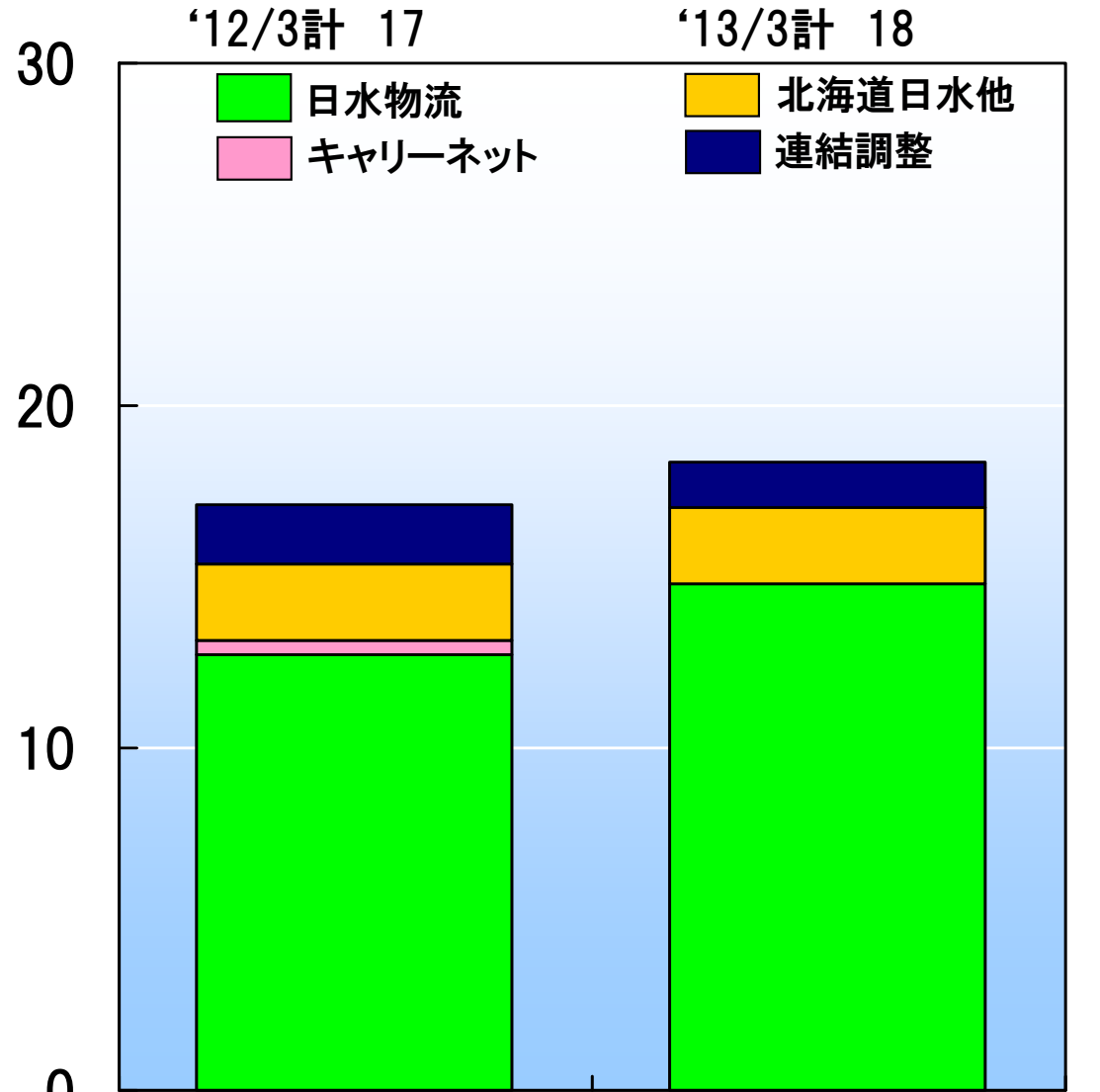


売上高 (単位:億円)



'12/3実績 '13/3実績
 ■ 日水物流 ■ キャリーネット
 ■ 北海道日水、他 ■ 連結調整

営業利益 (単位:億円)



'12/3実績 '13/3実績
 ■ 日水物流 ■ キャリーネット
 ■ 北海道日水、他 ■ 連結調整

※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※連結調整には、固定資産の未実現利益等が含まれる。

2013年2月5日に公表した、 緊急対策の実行について

昨年11月に社長直轄の緊急対策委員会を設け、早期に無配から脱する為の施策を議論し、対策を実行してきた。

1. 日水個別第3四半期、第4四半期の営業利益確保

在庫の絞込み、役員への12月業績連動報酬(賞与)全額カットその他経費削減を実施し、第3・第4四半期を通じた営業利益は前回公表値と大きく変わらない見通し

2. 2013年度の施策

①増力への取組み — 日水個別・水産と業務用食品の営業機能を統合し、水産品の食材化・惣菜化 → 成長と収益の安定化を図る

②増力への取組み — 日水個別・ファインケミカル事業の組織整備

*「ファインケミカル事業執行」を新設し、「生活機能科学研究所」

をその管轄下に置くとともに、ファインケミカル事業部にヘルスケア課を新設 → 機能的食品の売上増大を図る

③コスト競争力の強化 — 損益分岐点を下げる活動の継続

- * 役員報酬(賞与含む)並びに管理職の給与カット
- * セカンドキャリア支援制度(早期退職支援プログラム)導入
- * 食品事業 — 生産工場の効率的稼働、資材の集中購買など

3. 早期の復配に向けて継続審議

- ① 日水個別のグループ・コーポレート機能と水産・食品・ファイン各事業の役割・機能
- ② 日水個別の人材活用と固定費削減
 - * 人事制度(給与体系、役職定年制など)と人材育成
 - * 年金制度 * 不要、不急資産の活用、売却
- ③ グループ会社 — 不採算事業、投資リターン

■ 増力への取り組み

➤ 成長と収益の安定

✓ 水産品の食材化・惣菜化の推進

- 水産と業務用食品の営業機能の統合(2013年4月1日実施)

➤ 機能的食品の売上増大

✓ ファインケミカル事業部の組織改正

- 生活機能科学研究所を管轄(2013年4月1日実施)
- ヘルスケア課の新設(同上)

■ コスト競争力の強化 — 損益分岐点を下げる活動の継続

➤ 2012年度下期取り組みの成果

✓ 管理費の削減 約8億円の削減実施(前年比)

➤ 2013年度も活動を継続

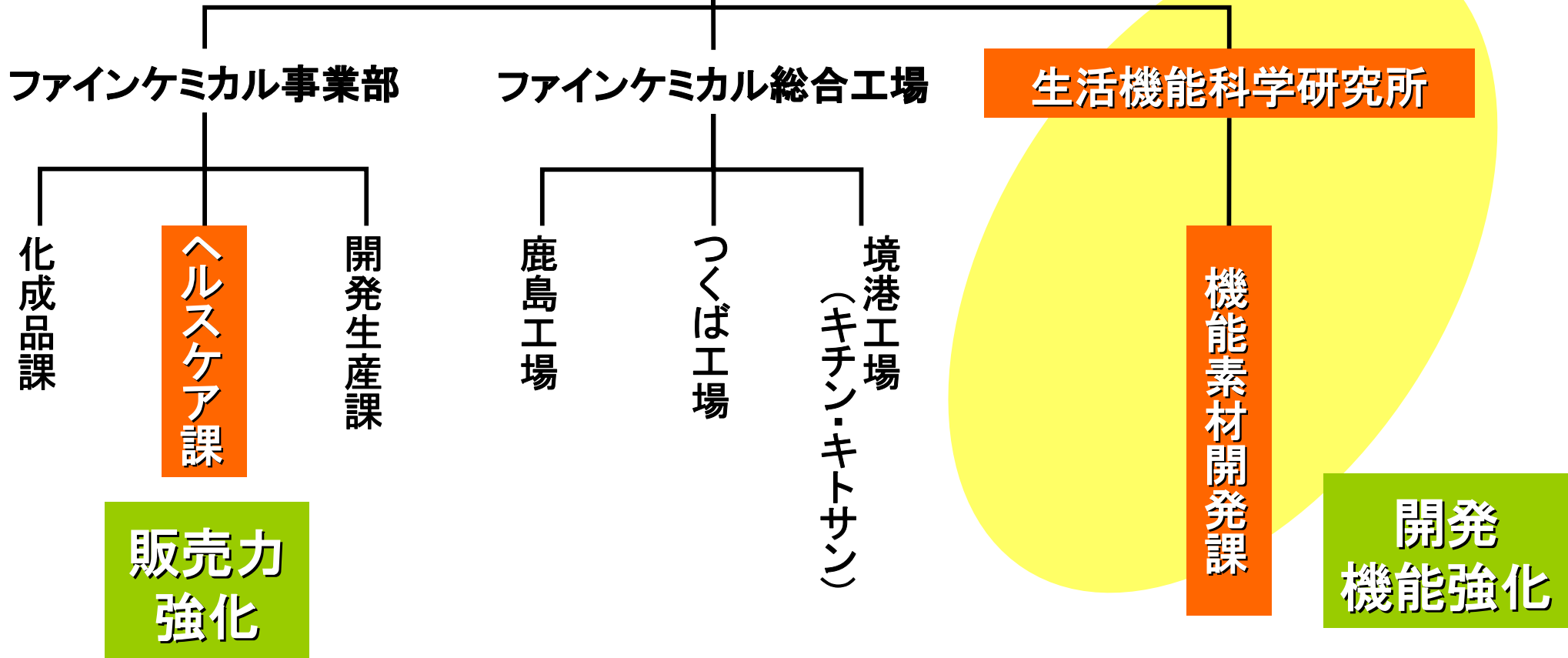
本社		支社					
事業部・商品部		広域営業本部	大阪支社	仙台	名古屋	中四国	福岡
現行組織	水産営業部 水産食材事業部 水産事業部 飼料養殖事業部	首都圏業務用営業部 首都圏家庭用営業部 広域営業部 コンビニエンス営業部 生協営業部	営業第一部 営業第二部 大阪水産営業部	業務用食品課 家庭用食品課 水産課			

水産と業務用食品の営業機能を統合し、
組織を業態別に再編する
水産品の食材化・惣菜化を推進し、
顧客と売上規模の拡大を図る

事業部・商品部		広域営業本部	大阪支社	仙台	名古屋	中四国	福岡
新組織	水産食材事業部 水産事業部	食材営業第一部(外食) 食材営業第二部(量販) 首都圏家庭用営業部 広域営業部(広域GMS) コンビニエンス営業部 生協営業部	食材営業部 家庭用営業部	食材営業課 家庭用食品課			
				※統合に関わる 変更のみ抜粋			

ファインケミカル事業を成長分野と位置付け、ファインケミカル事業執行を新設し、生活機能科学研究所をファインケミカル事業執行の管轄下とする
ファインケミカル事業部にヘルスケア課を新設し、機能性食品の売上増大をはかる

ファインケミカル事業執行



2014年3月期 見通しについて

■ 赤字事業の解消・収支改善

➤ アルゼンチン PESANTAR社

- ✓ 大型船一隻売却、現在はトロール船一隻のみによる効率的な操業

➤ アルゼンチン PESPASA社（2013年1月 売却完了）

➤ ブラジル NETUNO社（2013年3月 撤退を意思決定）

■ 事業構造改革の実施

➤ アメリカ King & Prince社（2012年度実施）

■ 収益改善

➤ チリ Salmones Antartica社

- ✓ トラウト価格が回復傾向（2013年1月より）

■ 事業拡大

➤ ヨーロッパ Nordic Seafood社とCite Marine社

水産事業

「収益の安定化と成長のための構造改革」

- 食材化推進、惣菜への対応
- 食品業務用とのコラボで顧客接点拡大
- 養殖技術の高度化
- 在庫管理の徹底
- 魚種を選択と集中

食品事業

「食品事業再構築に向けた集中と深堀で利益の最大化を図る」

- 全温度帯惣菜展開
- 新カテゴリーの創造
- 利益率の改善（不採算アイテム、取引）
- コスト削減
（在庫、物流費、販売経費、アイテム数、生産性見直し）

ファインケミカル事業

「機能性脂質を中心とするナチュラルファインケミカル分野
で抜群の存在感を示す」

■成長の推進

- OTC認可による増力
- 機能性食品
- 機能性原料

■コラボの推進→ 機能性食品の生産と販売

2014年3月期 通期業績見通し 連結・個別及び配当予想

連結

(単位:億円)

	2013年3月期 実績		2014年3月期 見通し		増減	
	売上高比		売上高比		増減比	
売上高		5,668		5,820	151	2.7%
営業利益		58	1.0%	125	66	115.2%
経常利益		54	0.9%	115	60	111.3%
当期純利益(▲損失)		▲47	▲0.8%	60	107	-

個別

(単位:億円)

	2013年3月期 実績		2014年3月期 見通し		増減	
	売上高比		売上高比		増減比	
売上高		3,298		3,330	31	0.9%
営業利益(▲損失)		▲7	▲0.2%	25	32	-
経常利益		6	0.2%	45	38	636.5%
当期純利益		3	0.1%	40	36	1097.6%

■ 予算レート US\$1=95円

■ 配当予想

2014年3月期 1株当たり配当金 年間 0円

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,951 (56)	363 (10)	251 (▲45)	123 (▲26)	394 (20)	3,084 (15)	▲718 (21)	2,366 (36)
	1,895	352	296	150	374	3,069	▲739	2,329
食品事業	3,008 (▲22)	511 (54)		60 (▲7)	214 (58)	3,793 (83)	▲1,000 (29)	2,793 (112)
	3,030	456		68	156	3,710	▲1,030	2,680
ファイン事業	311 (20)			3 (0)		314 (20)	▲18 (▲0)	296 (20)
	291			2		293	▲18	275
物流事業	225 (10)					225 (10)	▲88 (▲7)	137 (3)
	215					215	▲81	133
その他事業	275 (▲53)			1 (0)		277 (▲53)	▲49 (32)	228 (▲21)
	329			1		330	▲81	249
仮計	5,772 (10)	874 (65)	251 (▲45)	188 (▲33)	609 (78)	7,695 (75)		
	5,761	809	296	222	530	7,619		
連結調整	▲1,376 (59)	▲193 (▲3)	▲157 (19)	▲117 (9)	▲31 (▲8)		▲1,875 (75)	
	▲1,436	▲189	▲176	▲126	▲22		▲1,951	
連結計	4,396 (70)	681 (61)	94 (▲25)	71 (▲24)	578 (69)			5,820 (151)
	4,325	619	119	95	508			5,668

※上段は2014年3月期見通し、下段は2013年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

2014年3月期 見通し
セグメントマトリックス 営業利益(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	31 (19)	1 (▲6)	1 (39)	0 (3)	7 (4)		42 (60)	▲10 (▲2)	32 (57)
	11	7	▲37	▲2	3		▲17	▲7	▲25
食品事業	41 (27)	13 (4)		▲0 (▲0)	▲3 (0)		51 (32)	▲5 (▲5)	46 (26)
	14	8		0	▲3		19	▲0	19
ファイン事業	74 (2)			0 (0)			75 (2)	▲0 (▲0)	75 (1)
	72			0			73	0	73
物流事業	17 (0)						17 (0)	1 (▲0)	18 (0)
	17						17	1	18
その他事業	6 (▲5)			0 (▲0)			6 (▲5)	0 (1)	7 (▲4)
	12			0			12	▲0	11
全社経費						▲53 (▲13)	▲53 (▲13)	0 (▲0)	▲53 (▲14)
						▲39	▲39	0	▲38
仮計	172 (43)	14 (▲1)	1 (39)	1 (3)	4 (4)	▲53 (▲13)	139 (75)		
	128	15	▲37	▲2	▲0	▲39	64		
連結調整	▲8 (▲1)	0 (0)	▲1 (▲7)	▲1 (▲0)	▲4 (1)	0 (▲0)		▲14 (▲8)	
	▲6	0	5	▲0	▲5	0		▲6	
連結計	163 (41)	15 (▲1)	0 (32)	0 (2)	0 (6)	▲53 (▲14)			125 (66)
	121	16	▲32	▲2	▲6	▲39			58

※上段は2014年3月期見通し、下段は2013年3月期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

2014年3月期 見通し

全体のポイント 売上高・営業利益 増減額(前年比)



(単位:億円)

	'13/3期 実績	売上高 '14/3期計画 増減額 計画	'13/3期 実績	営業利益 '14/3期計画 増減額 計画
ニッスイ個別 水産	1,099	32	▲17	26
ニッスイ個別 食品	2,051	▲16	4	19
ニッスイ個別 ファインケミカル	147	15	44	1
ニッスイ個別計	3,298	31	▲7	32
国内各社計	2,463	▲20	96	▲3
海外各社計	1,857	64	▲24	45
連結調整	▲1,951	▲1,875	▲6	▲14
連結合計	5,668	151	58	66

2014年3月期 見通し
水産事業 会社別売上高(3カ年推移)

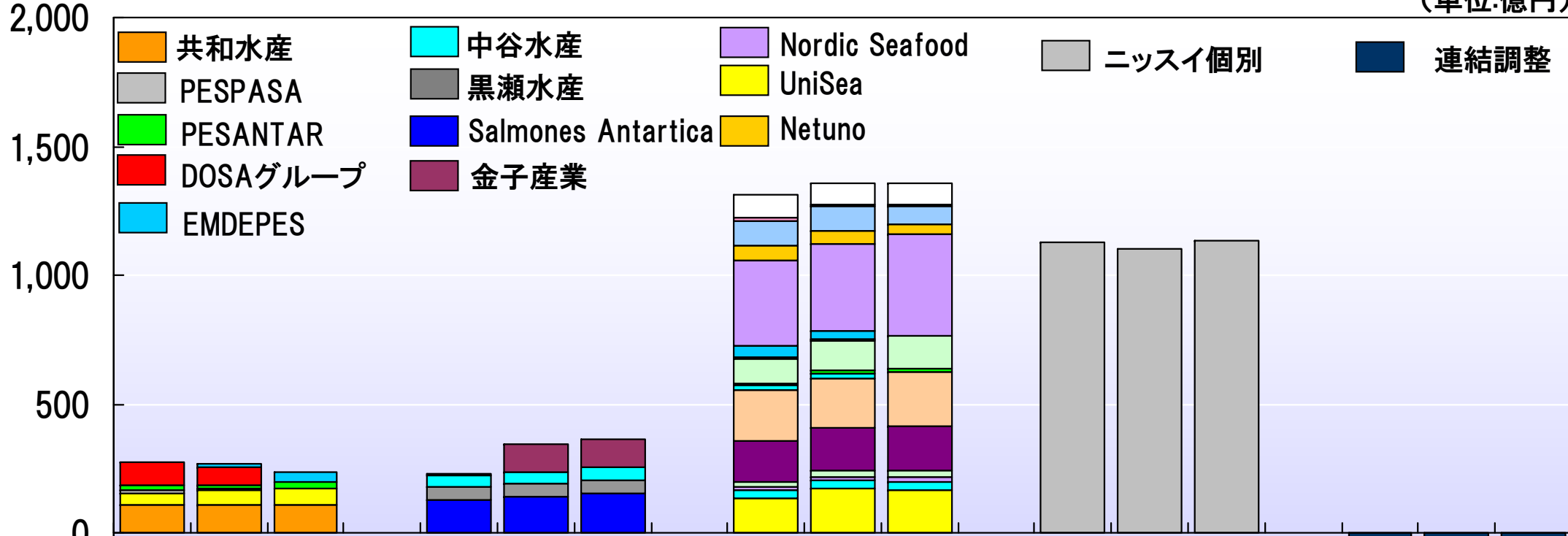


'12/3実績計 2,238

'13/3実績計 2,329

'14/3計画計 2,366

(単位:億円)



※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
※グラフ下部の斜体数値は機能別合計数値。



2014年3月期 見通し 水産事業 会社別営業利益(3カ年推移)



'12/3実績計 20

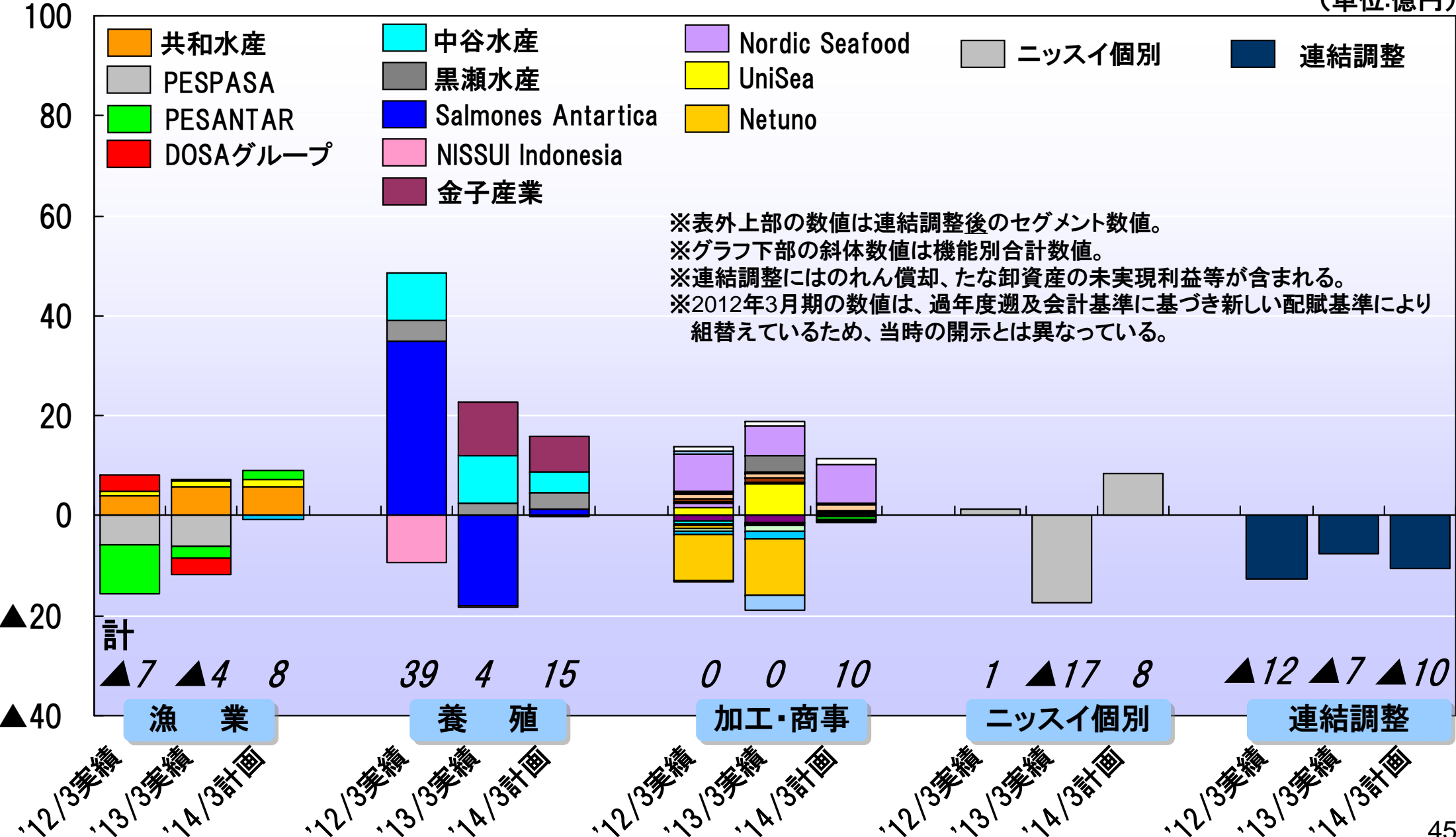
'13/3実績計 ▲25

'14/3計画計 32

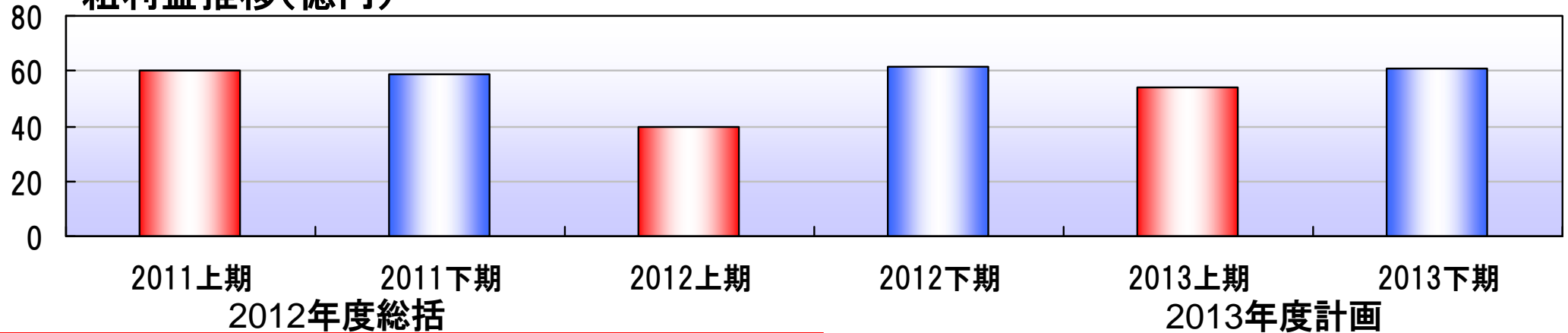
(単位:億円)

- 共和水産
- PESPASA
- PESANTAR
- DOSAグループ
- 中谷水産
- 黒瀬水産
- Salmones Antartica
- NISSUI Indonesia
- 金子産業
- Nordic Seafood
- UniSea
- Netuno
- ニッスイ個別
- 連結調整

※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別合計数値。
 ※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。
 ※2012年3月期の数値は、過年度遡及会計基準に基づき新しい配賦基準により組替えているため、当時の開示とは異なっている。



粗利益推移(億円)



上半期はチリ産銀鮭相場暴落に伴う魚価安等で粗利確保できなかったが、9月末に不良在庫を一掃し、在庫回転率を上げた事から下半期粗利率は前年並に回復。

【すりみ】

- 上期は健闘したが、下期は需要減と相場下落の影響を受け大幅な赤字に。但し在庫整理は3月末に済み。

【鮭鱒】

- 上半期は価格下落で大きな損を出したが、市場価格と乖離していたチリ産銀鮭、ロシア産紅鮭等の在庫を上期末に一掃し、下期の在庫回転率と粗利率は上昇。

【生鮮まぐろ】

- 相場崩れず通年で収益を確保。

【ぶり類】

- 浜値は下落したものの堅調に推移し利益を確保。

【魚油】

- 相場高騰の影響で利益を確保。

【ミール】

- 上半期の流れを引きずったものの下半期は回復傾向。



- ・2012年度下半期の流れを引継ぎ、且つ、すりみや凍魚等での取りこぼしを無くす。
- ・在庫のシーリング設定 → 低水準を維持。
- ・製品回転率を上げ物流費の削減を見込む。
- ・水産と業務用食品の営業機能を統合 → 組織を業態別に再編する事で業務問屋への販売強化(水産知識の豊富なセールスによる顧客掘り起こし)。
- ・業務筋への商品展開を深化する為、食材化・惣菜化率を推進。

2014年3月期 見通し
食品事業 会社別売上高(3カ年推移)

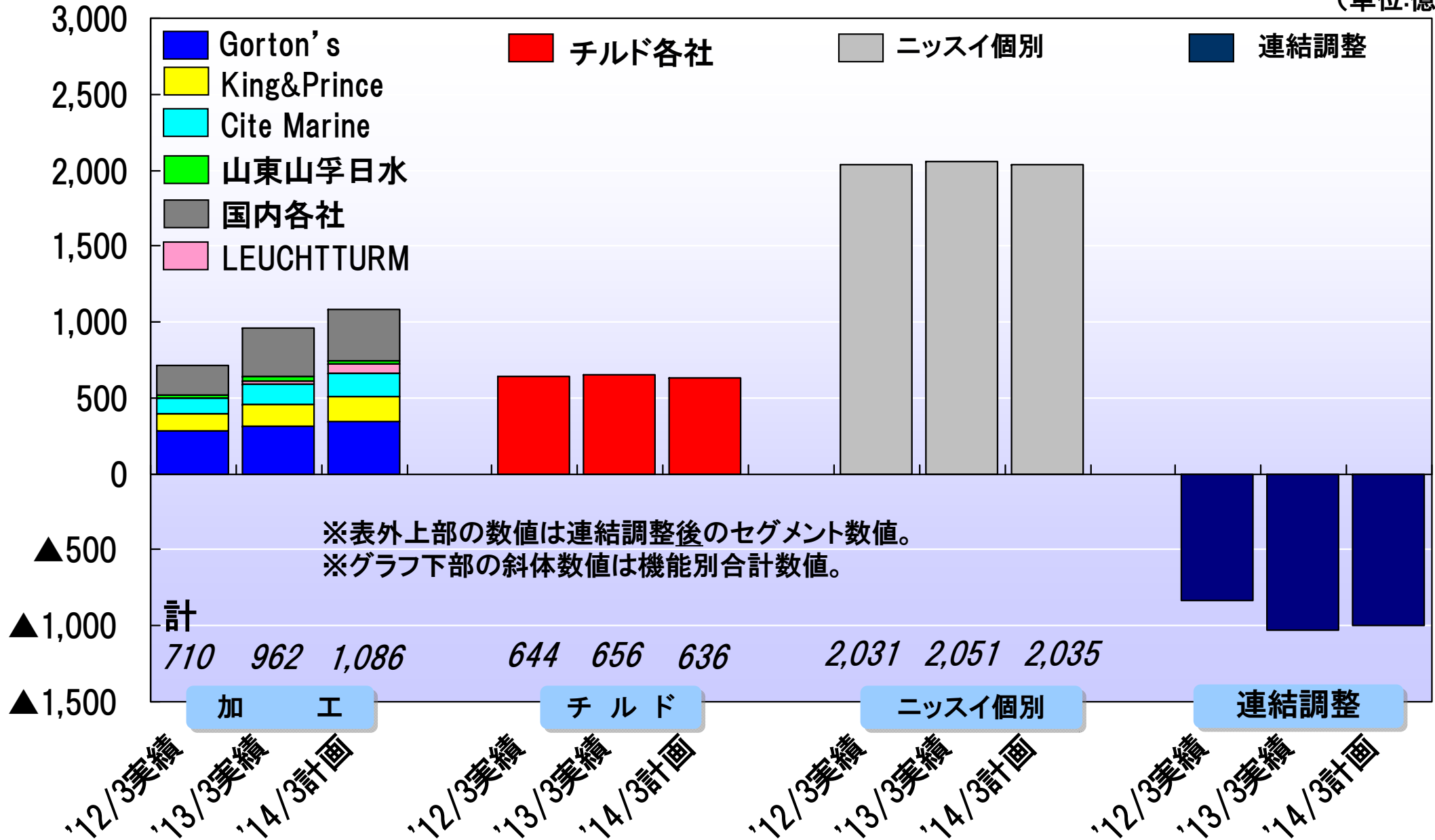


'12/3実績計 2,590

'13/3実績計 2,680

'14/3計画計 2,793

(単位:億円)



2014年3月期 見通し
食品事業 会社別営業利益(3カ年推移)

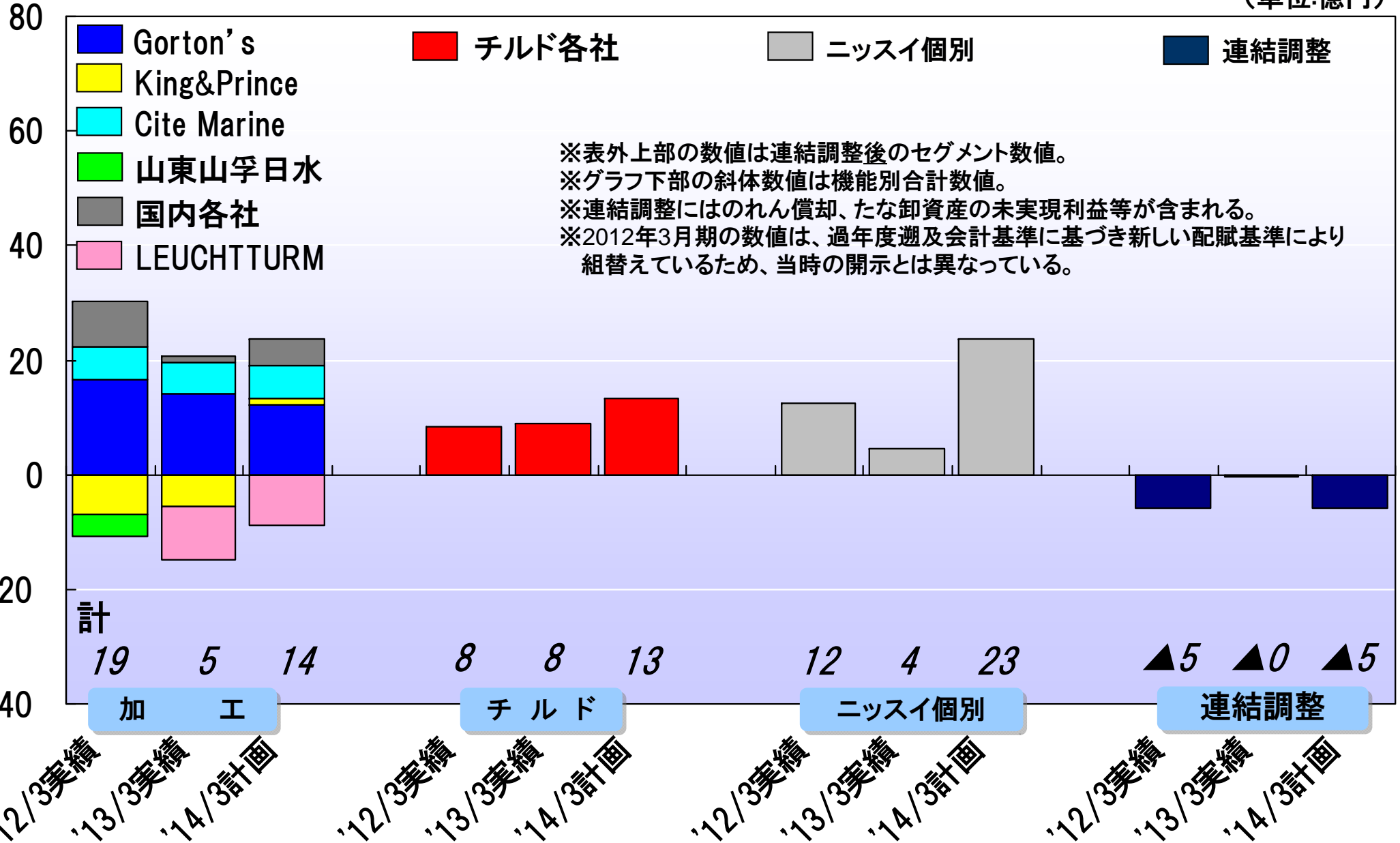


'12/3実績計 34

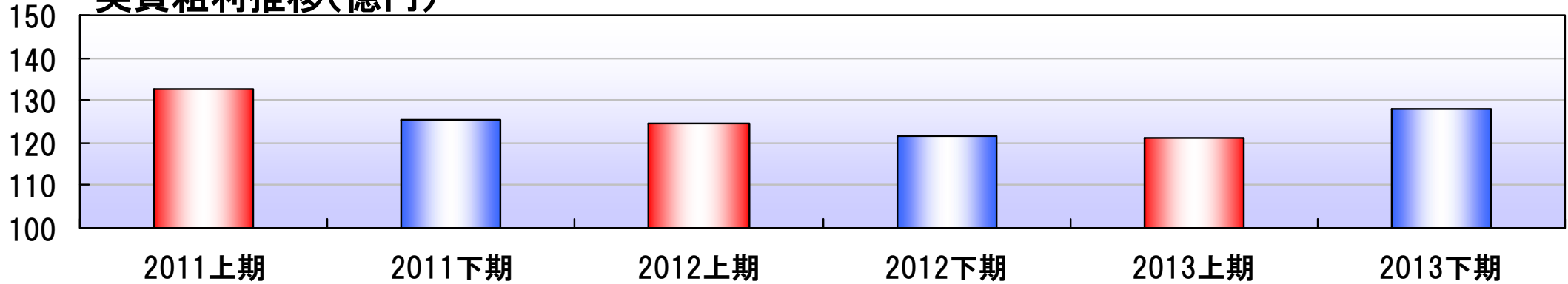
'13/3実績計 19

'14/3計画計 46

(単位:億円)



実質粗利推移(億円)



※実質粗利とは、通常の粗利からリベート等の直接販売経費を控除した利益を表します。

2012年度の総括

- 【全般】
 - ・12月からの急激な円安により、家庭用・業務用・缶詰の輸入品が大幅にコストアップし利益を圧迫
- 【家庭用】
 - ・主力商品への集中等により増収も、競争激化により販売経費は増加
- 【ハムソー・練り】
 - ・ハムソー：引き続きシェアNo.1を維持したが、市場縮小の歯止め掛からず
 - ・練り：廉価品が市場を席卷するも、高品質施策を継続
- 【業務用】
 - ・9大カテゴリー増力、農産・ファインフード好調も、調理品で他社生産回復・価格競争が激化



2013年度計画

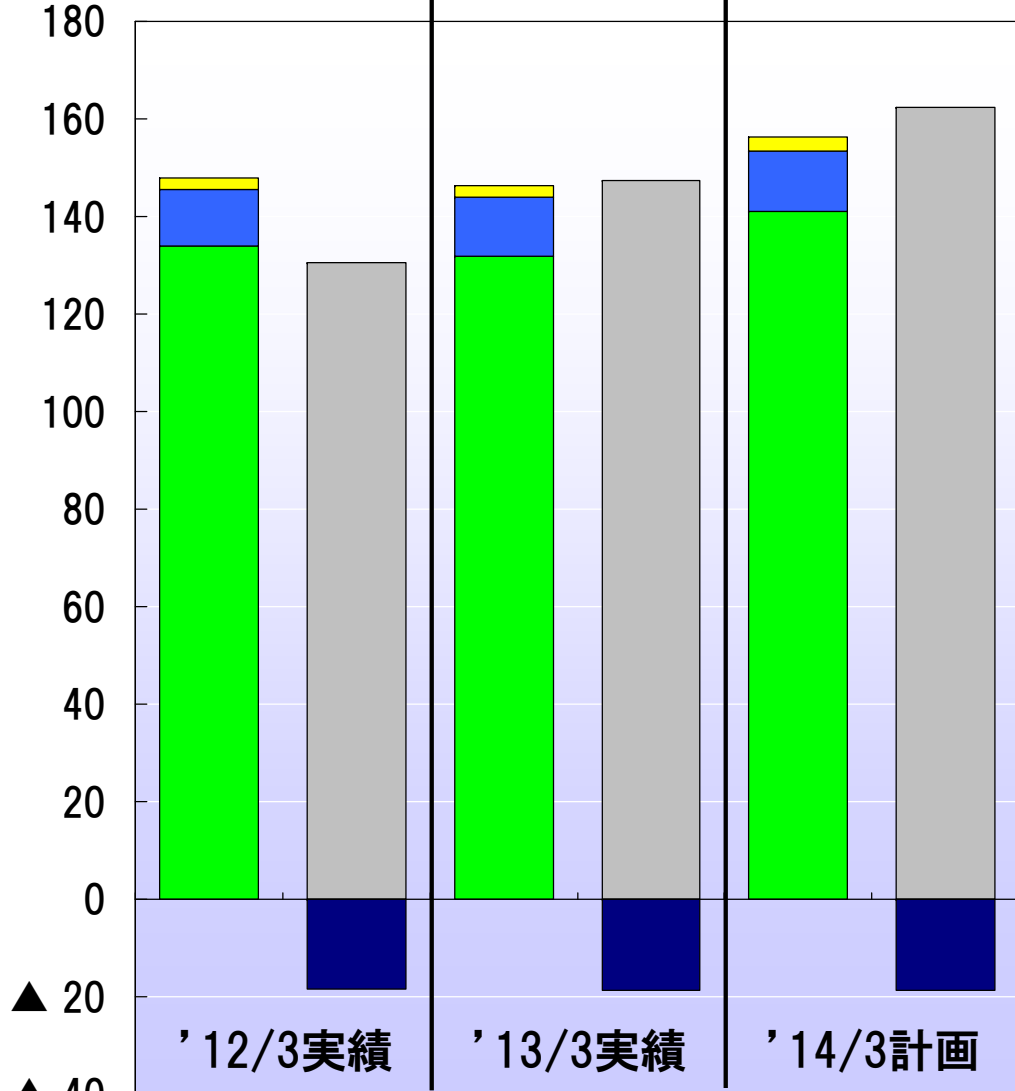
- 【全般】
 - ・価格改定の実施：4月より順次実施(家庭用、業務用、常温食品)
 - ・販売・生産の集中による利益の最大化
- 【家庭用】
 - ・具付き麺・焼きおにぎり・自然解凍品の販売に注力
 - ・即食・1食完結・惣菜など新カテゴリーの育成
- 【業務用】
 - ・惣菜・外食のノウハウと水産売場のノウハウの融合による、各業態での拡販と深堀
 - ・9大カテゴリーへの集中継続



売上高

(単位:億円)

'12/3実績計 259 '13/3実績計 275 '14/3計画計 296

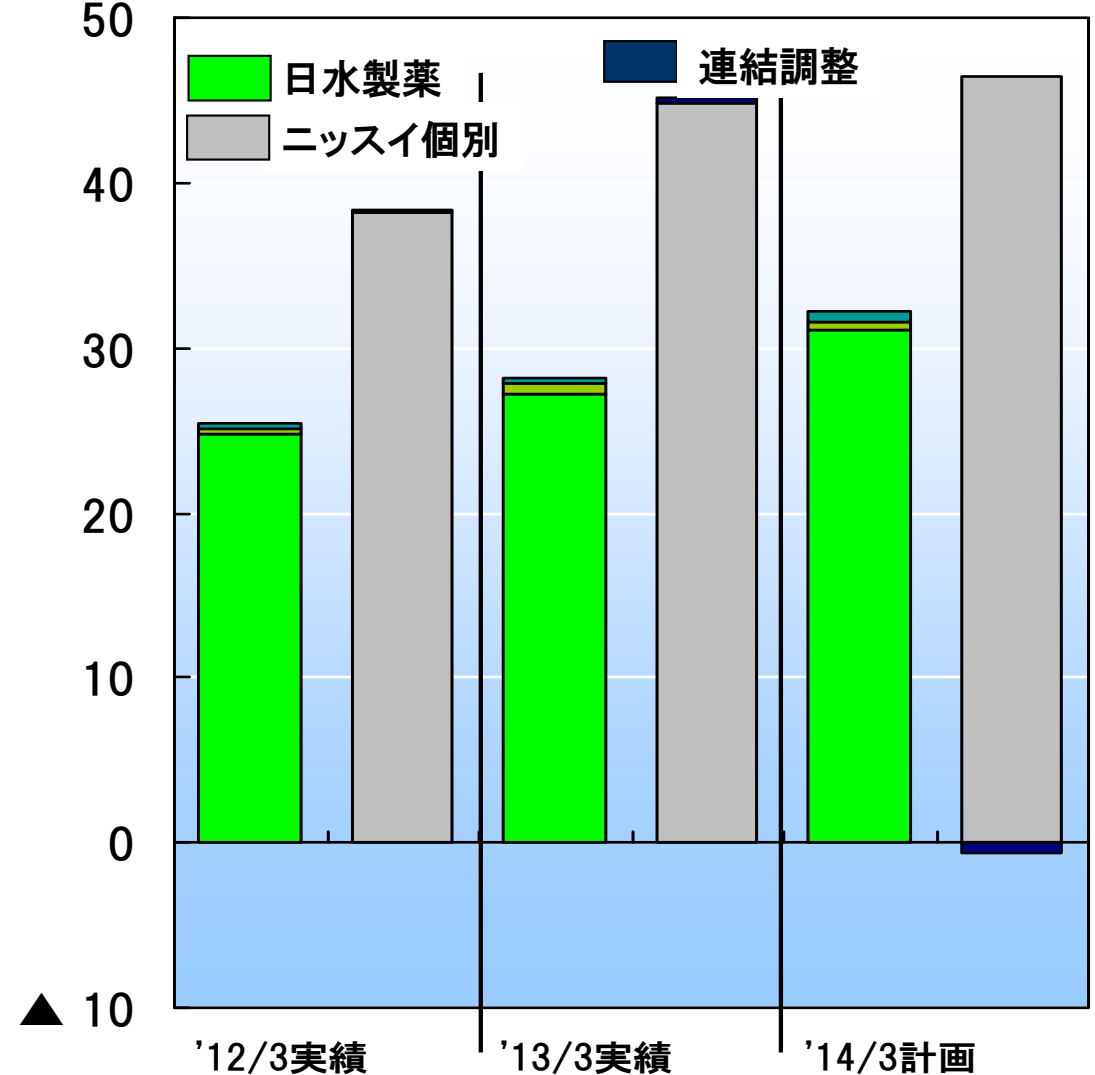


- 日水製薬計
- TN Fine Chemical
- 連結調整
- 北海道ファインケミカル
- ニッセイ個別
- ファイン計

営業利益

(単位:億円)

'12/3実績計 63 '13/3実績計 73 '14/4計画 75

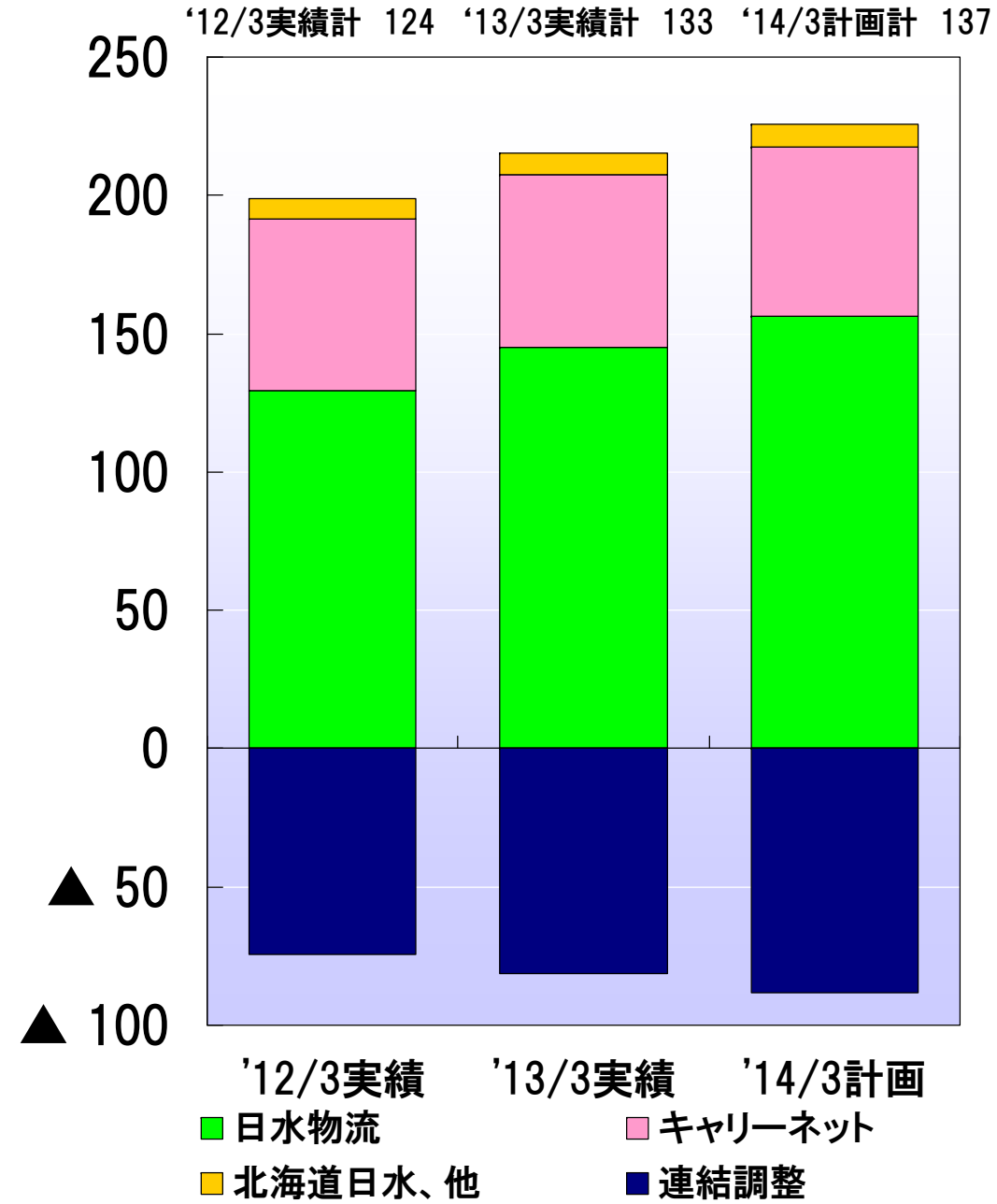


※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※連結調整には、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。
 ※2012年3月期の数値は、過年度遡及会計基準に基づき新しい配賦基準により組替えているため、当時の開示とは異なっている。

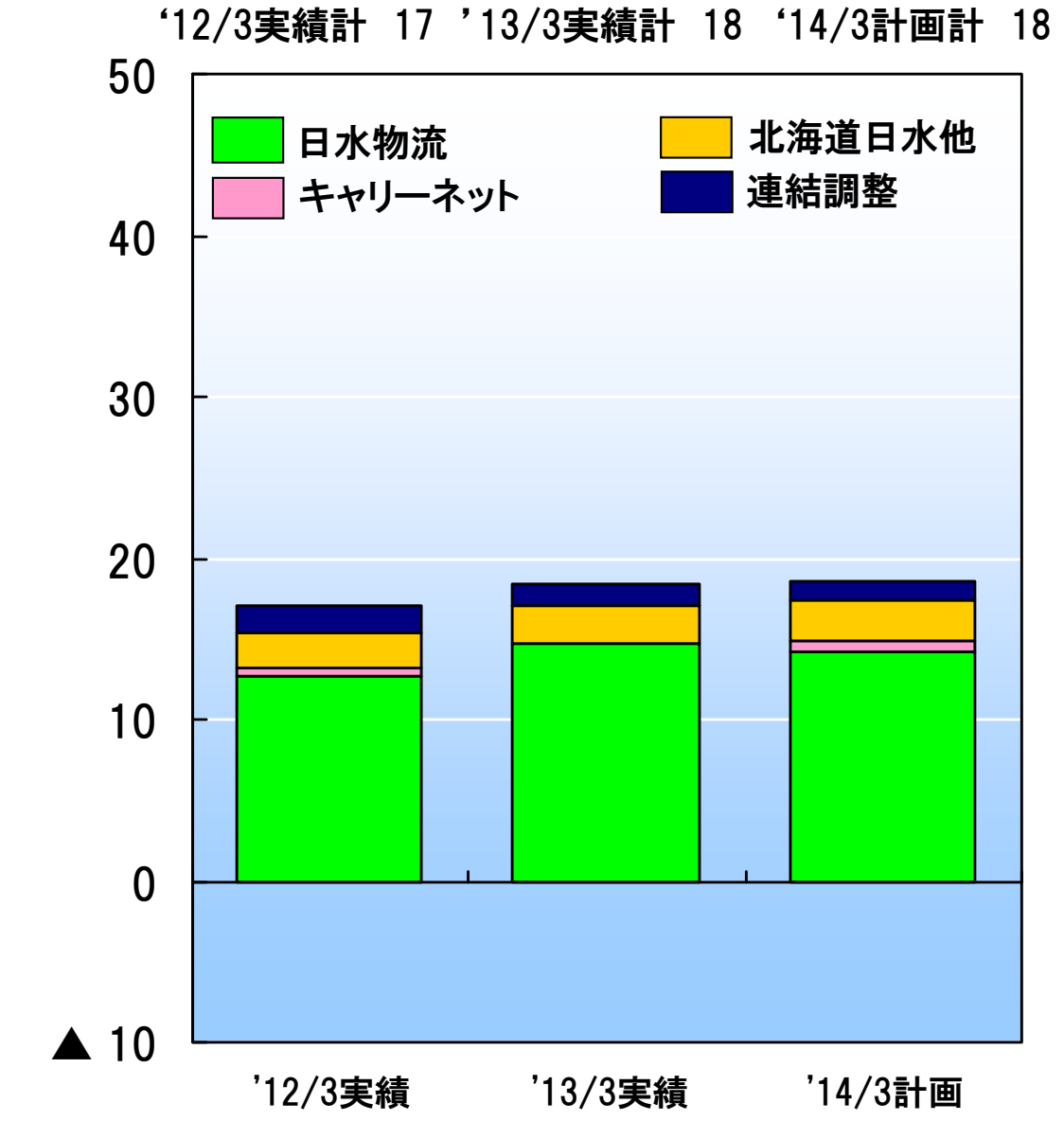
2014年3月期 見通し
 物流事業 会社別売上高・営業利益(3カ年推移)



売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



※表外上部の数値は連結調整後のセグメント数値。
 ※連結調整には、固定資産の未実現利益等が含まれる。

■ グループ経営体制の見直し

グループ収益力を増すため、ニッスイ個別の事業領域とその組織ならびにグループ各社をどう位置づけるか、グループ経営組織体制を見直す

■ ニッスイ個別の事業力強化に向けた事業組織改革

ニッスイ個別の組織体制について、個々の事業力を強化する視点で事業再編も視野に入れた改革案を策定する

■ グループの総合力を増すグループ各社再編

ニッスイグループ各社について、選択と集中を軸に再編も念頭に置き、収益力の強化策を検討する

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社
2013年5月15日発表
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課
03-3244-4371

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

